

茨城キリスト教学園高等学校同窓会報

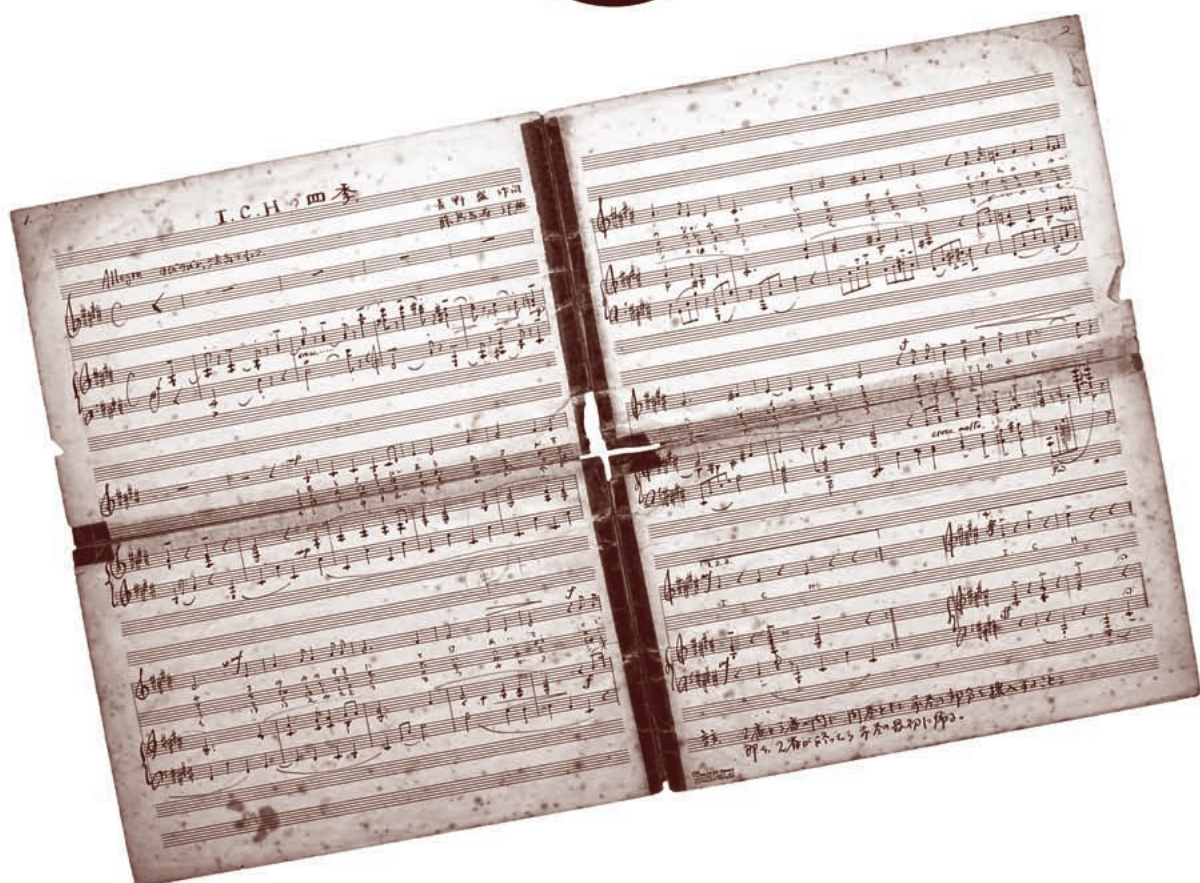
ZION

シオン

No.

33

2013



●ZION思い出のコレクション-2 「シオンの四季—直筆譜面」

「応援歌として校歌が必要」という要望から、1960（昭和35）年、生徒会の歌「シオンの四季」が作られた。

この手書き譜面は、作曲家・藤島昌壽氏が書いたもので、表紙に1960.7.10の日付けが記され、タイトルが「I.C.Hの四季」となっていることから、曲が完成した時点のものであることが分かる。

”自分に妥協しない”シオンのルーキー ●生徒に数学のわかる楽しさを!

数学担当 萩谷大佑先生 日立市在住



萩谷大佑先生は、平成元年日立市生まれの24歳。東小沢小、久慈中、そして茨城キリスト教学園高等学校に進学し、中・高校では自慢の俊足を活かしてサッカー部に所属。サッカー現役時代のチームワークは最高だったそ

うだ。その後、立命館大学へ進学し、数学教師の道に進むことに。現在は主に3年生の数学を担当している。

★先生はかなりお若く見えますが：

58回生です。昔お世話になった先生方がたくさんいらして、その先生方と一緒に仕事ができるのが幸せです。

家族は両親と姉との4人ですが、姉は現在千葉県在住です。

★担当の教科と部活動は：

教科は数学で、主に3年生を担当しています。部活動はバスケットボール部です。バスケットボールの指導は初めてですが、審判資格も取得したり、生徒と一緒にプレーしよう心がけています。日々の練習はもちろん、休日や生徒の自主練習にも、できるだけ参加するようにしています。

また、職場の食事に誘っていただいた時など、仕事や部活動について語り合うことが大変楽しいです。バス

ケットボール部の顧問は今後も続けていきたいと思っています。

★教師としてのモットーは：

生徒との年齢が近いこともあり、できるだけ話しかけるようにしています。数学はわからなくなるとあきらめてしまう傾向があるので、その点に注意です。数学でも部活動でも楽しくわかりやすい指導をするよう心がけています。

★学園生活で何か感じることは：

本校の生徒達は全体的に素直な生徒が多いと思います。時々、生徒の幼さを感じるような場面もありますが、(笑)。

★教師になろうとしたきっかけは：

高校で素晴らしい先生方に出会ってから、自分の気持や生活が変わりました。先生方は、生徒のために一生懸命働きかけてくれたことを感じていました。こんなに生徒の気持ちに寄り添ってくれる先生方に感謝するとともに、この

高校に勤めて自分もそんな教師になってみたい、そして恩返しをしたいと思ったからです。

★ご自分の高校生活の中で印象に残っていることは：

高校1・2年生のクラスマッチで優勝したことです。それまでの特進クラスは、クラスマッチにはあまり力を入れていなかったように思えます。それが、自分達の時には、勉強と運動を両立させようと必死の思いで戦ったのを覚えています。

★最後に、グッドポイントを：

自分に妥協しない。いつでも自分に厳しく、できるところまで全力で取り組むところです。全力で取り組むことができれば、どんな結果になっても後悔しないで済むと思うからです。

〈インタビューを終えて〉

生徒の目線で物事を考え、接している日々の様子が目に浮かびます。「自分に妥協しない。後悔したくないから」と、語る萩谷先生はとても輝いて見えました。



本校で教育実習を行い「教師を初体験」(後中央)

昭和25年
1950年

1回生を
迎える

語

16

あ

戦後の混沌とした時代に、
向学心に燃え、
自立の精神を培った青春。



今も、ファーストネームで呼び合う 仲間意識と連帯感

村松 修

水戸市笠原町在住

大越和子(旧姓・横須賀)

水戸市中央在住

工藤富美(旧姓・方喰)

水戸市笠原町在住

小鹿敦子(旧姓・鈴木)

水戸市末広町在住

村松 当時は新学制がスタートし、旧制
中学から新制高校へ移行入学しないで、
シオンを受験して入学する者、県立高校
へ入学し、1年で退学して入学する者と
様々でしたね。

大越 私は医学の道を志し、県立水戸
二高へ入学しましたが、シオン学園開校
の説明会で来校されたローヤー・キャ
ノン・ドイル先生方の熱意と賛美歌に心を
動かされ、数ヵ月後に転校していました。

小鹿 授業は各教科の他に労作があり、
手芸の専門書を参考に白い生地刺繍
を施し、絵を描いてカーテンを縫いま
した。
アメリカから中古衣料が届き、制服も
作りました。紺のブレザーの胸に金モ
ールで「SHION」の文字入りでした。

村松 男子の労作は、開墾した畑でサツ
マイモや落花生を収穫することでした。



教室の清掃作業もしましたね。アルバイ
ト料を頂きました。

放課後は、アメフト、クロッケー、野
球など等、先生と生徒入り乱れての戦い
でした。

工藤 音楽担当の前島礼子先生は気さ
くなお人柄で、買物にお付き合いしたり、
ガールズトークに花を咲かせたりと、友
達感覚で接していました。ほとんどの先
生が20代でしたね。

ローヤー先生ご夫妻にお子様が生誕し
た時には、クラス全員でお祝いに行きま
した。赤ちゃんを抱いた奥様は優雅で美

しく、うっとり見とれてしまったのを覚え
ています。松林を抜けた小高い丘に建つ
アメリカンハウス！映画の1シーンよう
でした。

大越 昨年のクラス会で、卒業後初めて
学園を訪れましたが、当時の建物は残っ
ていませんね。お弁当を食べたゴルゴタ
の丘はそのままでした。

小鹿 鈴木龍夫校長先生にキャンパスを
案内して頂き、復元された記念館では岩
間英夫先生に学園の歴史について授業
形式で話を伺いました。



名越 実
(22回生)
東京都在住

同窓会東京支部を!

高校時代は、応援団に所属していた。その頃の仲間とは今もって付き合いが続いている。

学校を取り巻く自然環境と校内に喫茶がある自由な校風は素晴らしかった、と懐かしく語る。

卒業後は、東京の専門学校で経営学を学んだ。その後、係わった建築の仕事を活かし、自ら建築関係の会社を立ち上げた。

現在、息子さんが一緒に仕事を手伝ってくれ、頼もしく思っている。

楽しみは旅行で、年に一度ハワイへ家族旅行をしている。

もうすぐ還暦を迎える。これを機に是非でも同窓会東京支部を発足させたいと思っている。

人生は、軽やかなステップと共に

いつでもダンスのステップが踏み出せるようにと、毎日30分のストレッチ体操が日課。趣味の“社交ダンス”が幸福な人生の導き手だった。

高校卒業後、専門学校を出て、栄養士として横浜の病院に就職。ダンスのレッスンを始めた。そして、外資系会社のダンスパーティーでご主人に見初められた。

今は、定年を迎えたご主人と一緒に海外旅行を楽しんでいる。イギリスのダンスの本場・ブラックプールへの観光。ドイツからデンマークまでの気ままな列車旅行。レンタカーでニュージーランドの1ヶ月の島巡り等々…。

ふたりでゆっくり楽しんでもらえるのも、近くで医師として開業している息子さんの家族の存在に支えられているからだ。



須加美奈子
(旧姓武子/12回生)
千葉県佐倉市在住



萩野谷泰男
(20回生)
埼玉県在住

もうすぐ“80歳”

中学3年で洗礼を受けた。シオンに入学後、すぐに聖書研究会をつくった。同級生の中に、牧師となり、後にシオン中学、高校の教師になった繁国良明氏がいる。

卒業後、当時の郵政省に就職。東京都内各地に勤務し、中央郵便局、関連会社を経て退職し、現在は川越市に居を構えている。

体力維持のために、ジム通いやウォーキングで1日最低でも1万歩を心掛けている。一方、俳句、短歌、詩を嗜み、会報誌等に作品を発表して楽しんでいる。

*心境を綴った1篇が寄せられました。

同じ時代に 同じ日本に生まれ
そしてシオンの学び舎で巡り合い
強い絆で結ばれた朋友に

追想を馳せています 萩野谷 泰男



●いま輝いています●
Bright
●いま輝いています●

世界中の若き音楽家が憧れるPMF（パシフィックミュージックフェスティバル）。その厳しいオーディションを通過した五来貴洋君は、昨年夏、開催地札幌を中心に各地でオーケストラの演奏活動を体験してきた。

PMFは、タンゲルウッドと並ぶ世界3大教育音楽祭のひとつ。世界を代表する音楽家たちが若手音楽家を育成する場として毎年開催されている。

帰郷した五来君は、一流音楽家の指導を受けたこと、同じ志を持つ世界各地の多くの友人を得たこと等、体験の全てが大きな財産になったと振り返る。

五来君が初めてバイオリンを手にしたのは小学2年生の時。高校2年までは日立ジュニア管弦楽団に所属し、アンサンブルを楽しんだ。

大学は、音大ではなく新潟大学教育

久慈浜の実家・五来肉店敷地に建つ「遊音コンサートホール」では、時折、演奏会を開いている。国内外で活躍するゲストが、五来君のバイオリンとアンサンブルを奏でる。

今年もPMFを目指し、さらに、タンゲルウッド、スイスのヴェルビエ音楽祭へのチャレンジも決めている。

卒業後も師に恵まれ、現在は日フィルのコンサートマスターの木野雅之氏について研鑽を積んでいる。

演奏の運営は全て学生が担う。プロの指導者を招き、東京でも演奏会を開く。経営を成り立たせ、決算を報告する総会もある。五来君はコンサートマスターを務めながら、音楽に係わる視野を広めた。インターンで東京交響楽団のステージマネージメントも経験した。演奏だけでなく音楽を支える側の仕事にも大いに興味を抱いた。一方、マスタークラスでジュリアード音楽院指導者の公開授業を受けたことを契機に、バイオリンへの情熱がさらに深まった。

●いま輝いています●
Bright
●いま輝いています●

PMFで演奏体験
世界を駆け巡れ!
バイオリンリスト
五来 貴洋 64回生
日立市在住

カラフルな未来に向かって

ギターロックバンド“モノクロミライ”でベースを担当するケイさん。

高校では生徒会副会長としてリーダーシップを発揮。時には、スポーツにもカラオケにも熱中した。

バンドは、キリ大軽音楽部の仲間3人と2005年4月に結成。CDショップで働きながら、都内を中心に月2、3回ライブハウスで演奏を続け、昨年は1stミニアルバム“カラフル”をリリースした。

「数年前までは時間的にも経済的にも余裕がなかった。今は、大抵の事はやれる。やっ行ってこうという心構えができた」と、まだ色のついていない白黒の未来に、極彩色の音色を奏でるため、次のステージに向かって進んでいる。家族（父・兄・弟もキリ高出身）の応援を受けて…。



瓦吹 慧
(62回生)
北茨城市在住



小林友明
(62回生)
大阪大学外国語学科
ドイツ語専攻在学

で、なぜドイツ語?

夢は英語の先生。なのに現在大阪大学でドイツ語を勉強中。

小さい頃からグリム童話に親しみ、そこからドイツの民俗学や文化に興味を持ち、中学生になるとカント哲学にたどり着くまでに…。ドイツ語と英語とは言語体系的に共通する点があるため、より深く複数の言語を学びたいと思ったそうだ。

大阪大学を選んだ訳は、今までの環境と違うところに自分を置いてみたかったから。学生は九州や西日本出身者が多く、外国語学科は女子が圧倒的に多い。

だから、部活は男子ばかりのサイクリングクラブを選んだ。昨年は野営をしながら東北地方を走った。いつかヨーロッパドイツ語圏を自転車で回ってみたい。夢を抱いて今、青春を突っ走り中だ。



隆 まりあ
(42回生)
日立市在住

ゴーイング・マイ・ウェイ

思いついたら、即実行。行動派だ。中高一貫前の女子のみのキリ中では、生徒会長として運動会でリーダーシップを発揮した。高校では、クラシックバレエのレッスンに熱中した。

小学2年の時、母親に連れられてバレエ入門。たちまち虜になった。勝田市の高木文子バレエスクールに入り、19歳の時、バレエの本場英国のロンドンスタジオセンターに短期留学した。

その頃から、東京のいろいろなバレエ団で、クラシックからコンテンポラリーまで数々出演し、バレエ生活を満喫した。

今も、高木文子バレエスクールで、子供から大人まで指導している。7月に行われる40周年記念発表会のレッスンに熱が入る毎日だ。

楽しいバルーンアート

高校時代を振り返って、真っ先に思い出すことは、楽しかった学園祭だ。部活は剣道部に所属して汗を流した。

卒業後は茨城キリスト教大学に進学し、ラグビー部で4年間心身ともに鍛えた。

現在は、水戸市商工会議所に勤め、地域振興に係わっている。

趣味は旅行で、年に1、2度、奥様や友人と海外に出かけ、大好きな美術館巡りも楽しんでいる。

また、バルーンアートの腕前はプロ級で、機会ある毎に子ども達に作品作りを見せ、プレゼントしている。

中学生の頃は保育士になる夢を持っていたほど子供が大好きで、バルーンアートを通して子ども達に喜んでもらい、幸せを感じている。



軍司龍一郎
(32回生)
那珂市在住

夫婦のシオン

加倉井義忠(37回生)

茨城キリスト教学園中高校非常勤講師(聖書) フリースクール代表・牧師

裕子(旧姓・小沢・38回生)

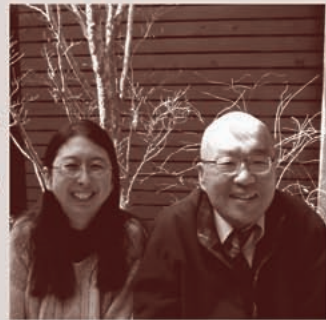
ひたちなか市在住

「子どもたちと共に」

おふたりは茨城キリスト教学園高校・大学で学んだ。いたずら好きな先輩義忠さんと、真面目な後輩裕子さんは、大学の「聖書研究会」で知り合った。

裕子さんのお母様の厳しいガードをお父様の陰からの応援でぐり抜け、めでたくゴールイン。結婚18年目を迎える現在は、長女の水緒さん(高校生)と3人暮らし。

物作りが趣味で整理整頓が苦手な義忠さんに、片付け大好きな裕子さんはちょっぴり苦しい。



現在、自宅でフリースクール「リニューアル」を立ち上げ、不登校やいじめなどの問題を抱えた子供たちを支援している。自分たちの経験を基に、子供たちと真剣に向き合い、「他人だけれど親戚以上」のいい関係を築いてきた。

情熱家だががんばり屋の義忠さんにとって、裕子さんはいつも側で支えてくれる心強いサポーターである。

生徒会歌「シオンの四季」物語

私たちは生徒会の歌「シオンの四季」についてどの位知っているだろうか。何故、こんなに歌われているのに、校歌ではないのだろうか。この歌は1回生から10回生にはほとんど知られていない。というのは1960(昭和35)年に作られたためであるが、それ以来途絶えることなく、今もなお歌われている。

この歌の成り立ちについて調べてみた。まず、校歌を作ることは、かねてより教職員、全校生の願いであり、1950(昭和25)年に生徒会発足以来、歴代の生徒会役員間においても申し渡しの課題であった。そして、1959(昭和34)年に生徒会長に選出された油座功(11回生)が、「野球の対外試合に応援歌として校歌が必要」と唱え、佐藤道子(旧姓福田・11回生)や阪井薫(旧姓牧野田・11回生)等生徒会役員達の強い要望もあって、ついにその年の秋に校歌の公募をすることになった。

これに応じたのが長埜盛、森貞昭三の教員であった。副校長も歴任した長

埜先生は当時、英文学科教師であったが、蛙睡という俳号を持ち、俳句を詠み、日本文学も愛好していた。森貞昭三先生は生徒の生活補導も担当していた体育科教師で、生徒からの信頼も厚かった。

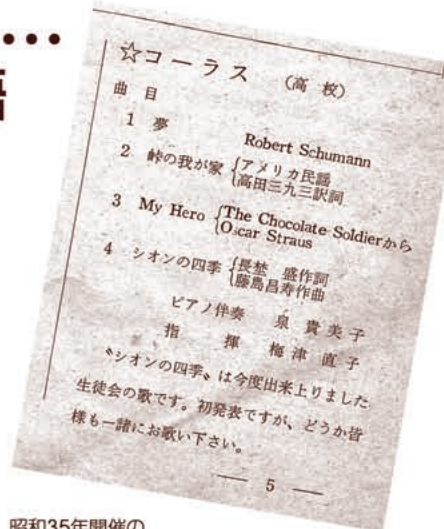
翌年の春、長埜先生の「ICMの四季」が選ばれた。そして、作曲は、当時水戸三高の音楽教師であった藤島昌壽氏にお願いした。その経緯は、生徒会役員の栽松洋子(旧姓椿井・11回生)が藤島夫人の弘子さんにバイオリンを習っていたことが縁で、生徒会長と2人で藤島宅に依頼に押しかけたというもの。

藤島氏は、武蔵野音楽大学ピアノ科を卒業した後、東京藝術大学の作曲科で学ぶ学生でもあった。後にその時の様子を、「作曲料として生徒会で集めたお金です。これだけしか有りませんが…と言って、ジャラジャラと布袋からテーブルに小銭を出された。こういう依頼のされ方は初めてであったが、生徒会歌を持ちたいという熱意に、その依頼を快く引き受けた」と振り返っている。

現在は、京都教育大学名誉教授として、地域の郷土の歌などの作曲を続けているが、今なお「シオンの四季」が愛唱されていることに感激しつつ、この曲について「最後のフレーズの高音域嬰へが声が出にくいのが気にはなるが、設定したホ長調は宗教的であり、真実とか愛情とか正義とかを表現するのにふさわしく、キリスト教の学園のイメージに合っていると、特にこだわって作曲した」と語っている。

一方、作詞については、当時の国語科教師(後に校長)の広瀬武先生が「最後の「ICM」という語はコーラスの時

昭和35年開催の「SHIONSAI」パンフレットに掲載された「シオンの四季」初披露の記事



に発音しにくいということで変えられたようだ」と言うように、本学創立時の学園名「シオン学園」にちなんで、最終的に「シオンの四季」として完成した。

しかし当時は、アメリカ人校長を中心に讃美歌を学校の歌として歌うことが習慣となっていたため、職員会議の結果生徒会の歌として許可されることになった。ついに1960年の学園祭に、着任後間もない音楽科教師の梅津直子先生の指揮、安藤貴美子(旧姓泉・12回生)のピアノ伴奏でコーラス部によって全校生徒に披露された。

このような流れを経て、この歌は本校の実質校歌として野球部やその他、機会あるごとに全校生、卒業生に歌われることとなったが、その陰には、毎年新入生に絶やさずに必ずこの歌を指導した梅津直子先生の尽力に負うところが多くであろう。

歌い出されて53年。今もなお、学園にはこの歌が脈々と歌い継がれている。



作曲した藤島昌壽京都教育大学名誉教授

新同窓会会長 就任のごあいさつ

金澤 克彦(20回生)



昨年6月の総会におきまして、鈴木前会長より本同窓会会長を引き継ぎました。20回卒業生の金澤克彦と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

歴代会長及び役員の皆様が残された足跡を大切に、同窓会活動を後輩の皆様が継承して行くために、一人でも多くの同窓生に参加して頂くためのシステムとして、総務、広報企画の3委員会を設置させていただきました。

母校の発展と、同窓生の絆としての同窓会活動発展のために、皆様のご支援・ご協力並びにご参加を心よりお願い申し上げます。

「ZION」発行への寄付のお願い

13,000人以上の卒業生各位への「ZION」発行と送料で200万円以上が必要となります。毎年資金が不足しております。一人2,000円以上の協力をお願いします。
(ZION紙に同封の振込用紙をご使用ください)

ありがとうございました!

3名の教職員の方々が勇退されました。

- ・松崎健一郎先生 (国語・39年間)
- ・埴咲子先生 (英語・2年間)
- ・神長英子さん (用務・11年間)

開催しました!!

■1回生同窓会を開催



平成24年10月26日(金)、大みかクラブで第61回目の同窓会を開催。卒業以来ほぼ毎年開いてきたものの、間もなく皆揃って80歳代になるため今回が最後。これまで東京開催が多かったため、今回は「懐かしい学園訪問しよう」と大みかに集まった。

■26回生3年7組クラス会開催



平成24年4月15日、水戸駅南のテラスザガーデンで、第2回クラス会を開催。第1回開催からなんと30数年振り!クラス50名中、20名参加で、サテあなたはダ〜れ?と、まるで人当てクイズ。担任の中野豊先生のご挨拶の後に出席をとって頂くと、アツという間に長かった空白が埋まり、学生時代に戻って本当に楽しい時間を過ごしました。

開催しま〜す!!

■日立支部の総会開催します

6月2日(日)午後3時から 場所:同窓会記念館ホームカミングディ当日です。常陸太田・日立・高萩・北茨城の同窓生の参加待ってます。

■只今、「東京支部」発足準備中。乞うご期待!!

◆茨城キリスト教学園中学校創立50周年式典

平成24年11月27日、学園講堂において記念式典が挙行され、合わせて、テレビ音楽番組でお馴染みの青島広志さんの解説によるクラシック音楽鑑賞会が開かれた。

◆表紙に掲載する「古〜い品々」募集のお知らせ

学園に係わりのある懐かしい品々を表紙上で紹介する、「ZION思い出のコレクション」シリーズにご協力をお願いします。例えば、古〜い生徒手帳、成績通知表、定期券、JR切符、ノート、教科書、弁当箱、イベントで使用した物品、学園で使用された機器類など、掲載に適するこれぞという「お宝」をお持ちの方は、是非事務局までご連絡ください。



大自然を愛し、達成感を満喫…
日本中の山にチャレンジしたい!
■ワンダーフォーゲル部
部員は、2年生2名、3年生4名、計6名(新入生を只今募集中!)の少数先鋭集団だ。
日頃の活動は、月に1度、県内外の山を登って身体を鍛え上げている。夏休みには大登山も試みる。昨年は、槍ヶ岳(3,180m)を制覇した。テント、食糧、着替え等で15キロを超える荷物を背負い、3泊4日の山旅だった。
神秘的な川の流れ、朝日に映える山々、夏だというのに雪原が、そして眼下には幻想的な雲海が広がる。山々の緑、空の青、白い雲、それらの絶妙

なコントラストは写真では伝わらない、そこへ行った者でなければ味わえない感動があるという。
過酷ながらも北アルプスの山々の景色に魅了されながらの登山は実に素晴らしい。高校生という多感な時期に、このような経験が出来るのはワンダーフォーゲル部ならではか。
(昨年度の成績)
・茨城県高校総体登山競技・団体5位入賞、関東大会出場
・東北 水戸地区合同登山大会・東北地区個人1位、4位入賞

第24回全国高等学校女子駅伝競走大会 本校は7年連続17回目の出場

■女子陸上部

大会は、平成24年12月23日、京都府西京極陸上競技場を発着とし、烏丸鞍馬口を折り返すコース(21.0975km)で行われた。7年連続で出場した本校は、

1時間10分35秒(過去茨城県出場チーム歴代2位のタイム)でゴール。昨年より順位を7つ上げ20位と健闘した。

新しい企画で出店 “シオン祭”

今回は、毎年恒例のコーヒーと陶器の販売に加えて、新企画「美味しいラーメン」に挑戦した。行列が出来るほどの人気で、予想をはるかに超える大成功を収めた。

収益金は、135,892円で前回よりもアップ。同窓会活動資金として有益に利用される。

皆様の頑張りとお疲れのあいの楽しさで満ち溢れた1日だった。また次回企画をどうぞ楽しみに!(楽しいアイデア募集中!)



●平成24年度同窓会への寄付者一覧
(合計金額 552,400円)

ご好意ありがとうございました。

(義援金も含む)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 大宮 越内 和子 | 12 荒 蒔 子 | 25 野 本 真 恵 |
| 2 宮 内 子 | 13 中 館 川 子 | 26 本 森 明 美 |
| 3 市 川 子 | 14 石 近 羽 田 子 | 27 大 富 永 育 浩 |
| 4 池 澤 田 男 也 | 15 井 野 坂 子 | 28 宮 岡 井 原 子 |
| 5 三 松 野 孝 雅 | 16 小 松 令 子 | 29 宮 岡 井 原 子 |
| 6 笠 高 野 光 郎 | 17 高 隆 珠 美 | 30 田 中 忍 子 |
| 7 皆 佐 讓 敏 三 | 18 堀 松 正 正 | 31 後 藤 幸 幸 |
| 8 瀬 原 裕 昇 | 19 山 崎 信 正 | 32 大 渡 幸 幸 |
| 9 小 崎 美 智 子 | 20 宮 上 本 月 | 33 野 大 寺 子 |
| 10 郡 司 任 孝 | 21 菅 村 山 本 | 34 野 大 藤 子 |
| 11 高 加 藤 志 江 | 22 菅 村 山 本 | 35 野 大 藤 子 |
| 12 海 野 村 純 一 | 23 佐 藤 武 子 | 36 久 藤 子 |
| 13 長 菅 原 誠 子 | 24 小 山 井 隆 昌 | 37 久 藤 子 |
| 14 大 戸 竹 堀 中 | 25 栗 原 隆 昌 | 38 久 藤 子 |
| 15 倉 持 征 敏 | | 39 久 藤 子 |
| | | 40 久 藤 子 |
| | | 41 久 藤 子 |
| | | 42 久 藤 子 |
| | | 43 久 藤 子 |
| | | 44 久 藤 子 |
| | | 45 久 藤 子 |
| | | 46 久 藤 子 |
| | | 47 久 藤 子 |
| | | 48 久 藤 子 |
| | | 49 久 藤 子 |
| | | 50 久 藤 子 |
| | | 51 久 藤 子 |
| | | 52 久 藤 子 |
| | | 53 久 藤 子 |
| | | 54 久 藤 子 |
| | | 55 久 藤 子 |
| | | 56 久 藤 子 |
| | | 57 久 藤 子 |
| | | 58 久 藤 子 |
| | | 59 久 藤 子 |
| | | 60 久 藤 子 |
| | | 61 久 藤 子 |
| | | 62 久 藤 子 |

編・集・雑・感

同窓会会長が、鈴木蒼志男氏(10回生)から、金澤克彦氏(20回生)にバトンタッチされた。役員会の顔ぶれが少し若返り、組織も少し模様変えをした。編集部メンバーも少し入れ替わり、頼りない編集長をベテランの面々がしっかり支え発行にこぎつけた。「シオンの四季」誕生エピソード、パワフルな1回生の同窓会と学園の歴史を改めて見つめ直す機会となった。(M.A)

- 編集スタッフ
ブキャナン理枝子・佐藤寿子・瓦吹堅・手塚正子・水庭敬子・原田順子・松田玲子・荒川眞理子・芳賀友博
- デザイン：M-at

お 待 ち し て ま ～ す !
平成25年度

ホームカミング・デイ

■日時:6月2日(日)AM11:00~PM2:00
■会場:キアラ館=総会・ミニライブ
学生会館=楽しい集い

★今年は、6、16、26、36、46、56回生が、ヒーロー及びヒロインです。いいことあります。こぞって出席ください。
★差し入れは、もちろん大歓迎です!

- 第1部:平成24年度同窓会総会
(お知らせ事項がいろいろあります)
- 第2部:特別企画「フィアンキコンサート」



2013 ICHIKAWA SYOJI TRIO MINI-CONCERT =22回生集まれ!!=

市川祥治トリオ

- ・市川祥治=ギター(ユーミンと共演の実力派!)
(22回生/ZIONNo.25-Brightで紹介)
- ・新川博=キーボード
- ・SHIME(シメ)=ボーカル
- 同窓会事務局：0294-52-3215

フランス菓子 ルブラン
水戸市千波町370 TEL.029-241-1991
http://www.leblanc.co.jp

SAKURA・SAKU LIFE
Http://www.sakurasaku.tv
JOSO

信頼・安心のブランド 住宅用太陽光専門店
京セラソーラーFC
ソラー発電は京セラ
株式会社 住まいるカワシマ
http://smil-kawashima.jp
本社:ひたちなか市津田1398-1 Tel029-273-9000
日立:日立市川尻町5丁目4-15 Tel0294-42-7111

建築・土木・住宅・リフォーム
株式会社 井上工務店
茨城県ひたちなか市和田町1-10-13
Tel:029-263-0211 Fax:263-0215
http://www.inoue-koumuten.jp

株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック
TEL.029-212-7700 水戸ホーリーホック 検索

HOME ROASTED SAZA COFFEE SINCE 1969
鈴木蒼志男(10回卒)
本社:ひたちなか市共栄町8-18
TEL 029-274-1151
www.saza.co.jp

★広告掲載(有料)希望される方ご一報ください

茨城キリスト教学園高等学校同窓会報

ZION No. 33

- 発行日/平成25年5月1日
- 発行人/金澤克彦
- 発行所/茨城キリスト教学園高等学校同窓会
〒319-1295茨城県日立市大みか町6-11-1 TEL.0294-52-3215(内線1620) FAX.0294-53-9271
http://www.icc.ac.jp/zion/ E-mail:ib-dousou@icc.ac.jp